

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	4-4-2		事業名	緊急貯水槽等整備事業			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
緊急貯水槽の設置数(累計)	28カ所	30カ所	31カ所	33カ所		33カ所 (21年度)	
[参考] 総貯水量	6,900m ³	7,100m ³	7,200m ³	8,150m ³		8,150m ³ (21年度)	
[参考] 応急給水対応人口	761,000人	783,000人	794,000人	899,000人		899,000人 (21年度)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 緊急貯水槽は災害時の円滑運用が重要であることから、関係町内会及び協力団体との協働による非常給水体制を構築する活動として、見学会及び現地説明会を実施している。平成20年度では6施設6回(10連合町内会・1町内会152名、札幌管工事業協同組合53名、札幌市災害時協力員24名の参加)の見学会を開催しており、平成21年度についても15施設の見学会を予定している。また、常時、町内会単位の現地説明会の申込みを受けている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							
評価(成果)			課題				
<p>緊急貯水槽は平成21年度までに5箇所、緊急時給水管路は平成21年度までに2箇所[〃]の整備が完了する予定である。その結果、貯水量が1,250m³増加し、市民約14万人分の飲料水(1人1日3リットルを3日分)が確保できる。</p> <p>平成21年度の事業完了に向け、着実に整備を進めていくことにより、これまで整備した緊急貯水槽・緊急深井戸・緊急時給水管路と合わせ、想定地震(最大震度6強)が発生した場合、断水を生じる可能性が高いエリアに居住する市民約90万人分の飲料水が確保され、災害対策の強化に資する。</p>			課題				
今後の事業の予定・方向							
今後の事業の予定・方向							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		4-4-2		事業名	緊急貯水槽等整備事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	523,000	420,000	176,000	0	1,119,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	34,000	18,000	34,000	0	86,000	
	市の債	77,000	36,000	71,000	0	184,000	
	その他の	412,000	366,000	71,000	0	849,000	
	一般財源	0	0	0	0	0	
予算	事業費	523,000	555,900	377,532	-	1,456,432	
	財源内訳						
	国・道支出金	34,000	18,000	31,000		83,000	
	市の債	77,000	42,000	150,000		269,000	
	その他の	412,000	495,900	196,532		1,104,432	
	一般財源	0	0	0		0	
実績	事業費	453,266	563,979	-	-	1,017,245	
	財源内訳						
	国・道支出金	34,000	18,000			52,000	
	市の債	57,500	48,000			105,500	
	その他の	361,766	497,979			859,745	
	一般財源	0	0			0	
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				124.6%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							
[21年度]							